

ときを越え  
受け継がれるもの

わら細工(小野寺わら工房)

胆沢区南都田字滑志田

古くから稲作が行われてきた胆沢区。江戸時代以後藤寿庵が寿安堰を開削し、胆沢扇状地は豊かな大地へと作り替えられた。米の収穫が増えるのに比例して収穫後の稲わらも豊富になった。

わらは柔軟で加工しやすく、強度や通気・耐水性、保温性に優れた特性から、生活の中で広く利用され、「わら製品なしに胆沢の生活は語れない」といわれるほど、その種類は多種多様だった。しかし戦後、化学繊維やゴム、ビニール製品などが安く手に入るようになると、わら製品は日常から姿を消し、各家庭で自作していたわら細工の文化も失われていった。そんな中、小野寺わら工房では「胆沢のわら文化の継承」を掲げ、わら細工の製作だけでなく、縄ない指導や体験学習の受け入れなども行っている。

人の手の温もりと農村の伝統文化を今に伝えるわら細工。物を生かす先人の知恵が、次の世代へと受け継がれていく。

※小野寺わら工房の協力により行われた「農はだて・庭田植を再現」の記事は18ページ

広告



1左:すんべ…寒い時期にわらじの先に装着する防寒具、中:わらじ…農作業や旅行のときに着用した、右:素雪沓(すゆづけ)…雪の少ない時期に履く。軽いため激しい労働に適している 2猫えんつこ…乳幼児用のかご(えじこ)の技術を応用した猫用のかご 3用途に応じてさまざまな縄が作られた。左上:背負縄(しよいな)、左下:鼻綱(はづな)、右上:荷縄(にな)、右中:荷鞍縄(にくらもとつ)、右下:田掻縄(たかきもとつ) 4一家に福を呼ぶといわれる縁起物の福俵

